

三財小中学校 令和元年度学校評価

※ 評価は、4段階評価 4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:どちらかといえばそう思わない。 1:そう思わない

中期経	本年度の重点目標	目標達成のための具体的実践	各評価										分析・考察	今後の対応	学校関係者評価委員意見	
			児童	生徒	ジュニア	ミドル	トップ	保護者	小職員	中職員	職員	地域			評価	
(1) 学びの財	見える学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 私は、板書の工夫、めあて、まとめの明確化、発問、指示の工夫、ICTの活用など分かりやすい授業に取り組んでいる。 先生の授業は、分かりやすいですか。 学校は、全員が参加し、分かりやすい授業を行っている。 	3.9	3.4	3.9	3.8	3.3	3.1	3.5	2.8	3.1		<ul style="list-style-type: none"> 「授業は分かりやすいか」で児童生徒の評価は高いが中学校職員の評価がやや低い。 教師は分かりやすい授業を行っていると感じており、児童生徒は分かりやすいと感じている。 「学校が分かるまで指導している」は、児童の評価が高いのに対し、保護者の評価が低い。 教師は、基礎学力の定着を図るため、分かるまで教えているということが児童生徒の評価からうかがえる。 読書に関してはどの立場からも評価が低い。本校の課題の一つであるといえる。 読書活動に関しては、ステージ上がるごとに読書の評価が下がっている。 キャリア教育については、小学校職員の評価が低い。そこまで意識した活動にはまだ至っていないことがうかがわれる。地域の方の評価が高いのは「将来のことについて考える教育は大切である。」というキャリア教育の必要性を問う設問になっているためと思われる。全体的にキャリア教育の意識は高く、地域の評価も高い。 「お子さんは家庭での学習の仕方が分かっている」という問いに対して保護者の評価は十分ではない。 家庭学習の意識は、低学年ほど高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互参観授業、教科担任制、相互乗り入れ体制等、小中全体での授業改善を今まで以上に推進していく。相互参観授業を通して、授業を改善し、教師の授業力向上を図る必要がある。 児童生徒の項目「先生は、分かるまでおしえてくれますか」の評価は高いので、学力調査等の経年変化等による客観的で丁寧な状況説明を保護者へ行っていく必要がある。授業での習熟の時間の確保、朝自習等の時間を活用し学力の定着を図る。 読書については県教育委員会の重点取組事項であり、本校でもPTAと連携した全体的な取組が重要である。読書の時間の活用だけでなく積極的に読書を推進する。 小学校低学年から9年間を見通したキャリア教育の視点を研修を通して共通理解できるようにする。学活・総合的な学習だけでなく、全教科または、へそ祭りの参画、キャリアミーティング等の行事を通して総合的に育成していく。 家庭学習に関するモデルをステージごとに明確にし、懇談等を利用して保護者に啓発していく必要がある。 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の必要性を伝え、学習のやり方も指導する。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育については、実際に学習した児童が、看護師等、具体的な夢を持つ機会となった等、将来の仕事への知識を得る上でよい取り組みだと思う。 県が「日本一の読書県」を推進しているというが、何をもちて読書日本一位とするのか、指針が示されると分かりやすい。単に借りた冊数が多ければよいというものではない。学年のステージに応じた目標があるとののではないか。 A:読書指導に関する、職員の評価も低いことが課題である。読書の意義について確認し、PTAと連携した取組が必要である。 最近の子供は、読書よりゲームが忙しい面がある。 宮崎日日新聞の「みんなの作文」に最近掲載されていないので、先生の負担もあるかとは思いますが、掲載されると地域が元気になる。 「授業は分かりやすいか」を児童生徒が高評価なのはよいことではないか。 小学校5年生以上になると家で教えるのはなかなか難しい。 A:学力、読書指導については、学校の取組、家庭の取組両面からのアプローチが求められる。全てが学校教育で担えるものではなく、保護者の意識も変わっていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 私は、基礎学力の定着を図るための指導を行っている。 先生は、分かるまで教えてくれますか。 学校は、「分かる」「できる」まで指導している。 	3.9	3.4	3.9	3.7	3.4	2.9	3.4	3.1	3.2	3.4				
		<ul style="list-style-type: none"> 私は、読書活動を推進している。 あなたは、よく本を読んでいますか。 ご家庭で、本について話したり、読書をしたりしている。 	3.3	2.4	3.4	2.8	2.5	2.3	3.1	2.2	2.6					
		<ul style="list-style-type: none"> 私は、キャリア教育の視点を意識した教育活動を推進している。 あなたは、将来の夢をもちていますか。 ご家庭で、お子さんと一緒に、お子さんのことやお子さんの将来について話したりしている。 	3.6	3.0	3.8	3.3	2.9	3.2	2.9	3.0	3.0	3.8				
		<ul style="list-style-type: none"> 私は、家庭学習に関する保護者への啓発や子供への指導を行っている。 先生は、家での勉強の大切さややり方について教えてくださいませんか。 お子さんは、家庭での学習の仕方が分かっている。 	3.8	3.1	3.8	3.5	3.0	2.8	3.3	2.8	3.0					

(2) 心の財 自己肯定感と豊かな人間性の育成	6	<ul style="list-style-type: none"> 私は、生徒指導の三機能を意識した実践を行い、問題行動(いじめ)等があった場合、迅速に報告・連絡・相談するよう努めている。 先生は、あなたのことを認めたり、励ましたり、相談に乗ったりしてくれますか。 学校は、子供一人一人を大切に、子供・保護者の悩みや相談に乗ってくれる。 	3.9	3.4	4.0	3.8	3.3	3.0	3.7	3.3	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は子ども・保護者の悩みや相談に乗ってくれる」に対する中学校の保護者の評価がやや低い。児童生徒の評価は小3.9、中3.4と割合高い。 教師は、児童生徒に対して、迅速に相談に乗ったり、いじめの対応を行っている。 挨拶、返事、整理整頓については全体的にまあまあできているという評価である。 あたり前3カ条について、意識が高く挨拶・返事・整理整頓ができていると評価している。地域からもあいさつがよいという評価であった。 「家庭で学校や社会のきまりを守るよう指導している」が中学校保護者ではやや低い。 廊下歩行など学校のきまりを守ろうとする意識は高い。 「親切にされてありがとうが言える」という問いに、児童生徒共に高評価である。言葉だけでなく行動にも表すことができるようになると全体の評価が更に高くなると思われる。 感謝の気持ちが育っているという評価が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「先生は、あなたのことを認めたり、励ましたり、相談に乗ったりしていますか」への児童生徒の評価が割合高い事は、教育相談やいじめアンケートへの取組等を通して、全体的に信頼関係が築けているためと思われる。こうした評価を保護者へも発信していくことが大切である。 今後も、迅速な対応はもちろん、定期的な教育相談の実施を行い、常に児童生徒の様子を把握しておく必要がある。 挨拶、返事、整理整頓、きまりについても児童生徒の評価は悪くはないため、落ち着いた学校生活がなされていると思われるが、児童生徒会の活性化を通して今以上に自主的な取組を推進させていく必要がある。 「ありがとうの花をさかせよう」を意識した3学期の取組を行っているが、次年度年間を通して更に継続させていく必要がある。 あたり前3カ条については評価は高いが、児童生徒会を中心にさらにあいさつ運動の推進を図った行く。 	3.7 <ul style="list-style-type: none"> 廊下に生徒会が中心となった取組として折鶴が並べられているが、皆が正しい廊下歩行を意識できるのでよい。 いじめ問題等に対する児童の評価は高いが、実際に報連相の状況はどうか？ A:いじめ防止基本方針に基づいて、月1回のアンケートや週1回の情報共有を実施し、見逃さず組織的に対応するよう努めている。 「毎日の記録」で生徒が相談を書いたら、先生が丁寧に答えてくれたという話を聞いた。信頼関係ができていてよい。 からかい半分であっても、セクハラと同じで捉える方がいじめと捉えたらいじめになるというところの判断が難しいように感じる。 A:トラブルをさせないのが学校ではなく、失敗したことを学びとする指導が大切。 何年前には下校中1人に4人分のカバンを持たせるような事例があった。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 私は、あたりまえのこと3カ条の指導を日常的に行っている。 あなたは、あいさつ・返事・整理整頓が実践できていますか。 ご家庭で、挨拶・返事・整理整頓の大切さを伝えている。 	3.5	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6				
	8	<ul style="list-style-type: none"> 私は、廊下歩行など学校のきまりについて指導を徹底している。 あなたは、廊下歩行など学校のきまりを守っていますか。 ご家庭で、学校や社会のきまりを守るよう指導している。 	3.7	3.5	3.8	3.6	3.4	3.5	3.4	3.1	3.2	3.4			
	9	<ul style="list-style-type: none"> 私は、感謝の気持ちを育てる教育を実践している。 あなたは、親切にされたときに「ありがとう」と言えますか。 お子さんは、感謝の気持ちが育っている。 	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.1	3.4	3.3	3.4	3.4			
10	<ul style="list-style-type: none"> 私は、子供の安全・健康を最優先しながら、命の大切さを考えさせる指導を行っている。 先生は、命や健康の大切さを教えてくださいませんか。 学校は、命や健康の大切さを指導している。 	3.9	3.6	3.9	3.9	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 7月の「いのちについて考える週間」を中心に、安全教育・食育・性教育等様々な視点から、各教科・道徳・学級活動を関連させて繰り返し指導していく。 いのちの大切については、これからも全教育活動を通して、児童生徒だけでなく保護者にも啓発をしていきたい。参観日で、担任が「命」に関する授業を今後も続けていきたい。 SSカードの活用について、再度全職員が児童生徒に指導すべき内容を確認し、指導の足並みをそろえるようにする。保健便り、学校保健委員会を通して、基本的な生活習慣の改善を行う。 職員の評価が読書に次いで低く、 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さについて、以前三財教育振興会では、「命をいただく」をテーマに、ひよこから育てた鶏をつぶしていただくという計画を立てたことがある。実現はしなかったが、A:以前他県の学校現場でそうしたことに取り組んだが、子供が受け止めきれず賛否両論を呼んだ事例があった。道徳では「いのちの大切さ」を扱った教材が3～4時間ある。本校でも助産婦さんや、交通事故で肉親を失った遺族の方等、生の声を届ける機会を設けている。 		

11	<ul style="list-style-type: none"> 私は、基本的な生活習慣の定着に向けて、SSカード等を活用し、子供や保護者への啓発を行っている。 あなたは、早寝・早起き・朝ごはん・歯磨きなど規則正しい生活をしていますか。 ご家庭で、早寝・早起き・朝ごはん・歯磨きなど規則正しい生活を実践している。 	3.6	3.6	3.7	3.5	3.6	3.3	2.8	2.8	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 児童では「好き嫌いをせずに食事しているか」という問いの評価が読書に次いで2番目に低い。 食育指導に関して、好き嫌いをなくよく食べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組が全職員で共有されていない。体力向上プランで低い項目を日常生活の中でどう鍛えていくかという視点が必要である。 体力テストの目標値を設定し日頃から体力向上を意識させる。 「好き嫌いをしない」という項目に対して、学校でも家庭でも強くは言えない面があるが、根気強く改善していくための情報の共有が今後、より大切である。 日頃の給食指導・保健・栄養教諭の授業等を通して、栄養のバランスの大切さを伝え、好き嫌いをなくす。 	3.3
12	<ul style="list-style-type: none"> 私は、体力向上プランに基づいた取組や外遊びを進めるなど体力向上に努めている。 あなたは、外で遊んだり、体を動かすことが好きですか。 ご家庭で、自力登校や外遊びなど、強い心や体力の向上につながる取組を促している。 	3.8	3.6	3.8	3.7	3.5	3.2	2.8	2.7	2.8	3.5		
13	<ul style="list-style-type: none"> 私は、日常における給食指導や「弁当の日」等の取組を通して、食への意欲・関心を高めている。 あなたは、好き嫌いをせずに食事をしていますか。 家庭で、お子さんが好き嫌いをしないように工夫や指導をしている。 	3.4	3.4	3.5	3.2	3.4	3.1	2.8	3.1	3.0			

教務・管理部	信頼される学校づくり	<p>14</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、一貫校のメリットを生かした教育の推進について理解・協力している。(指導・授業体制、ステージ制など) あなたは、小学校と中学校が一緒になっている学校生活は楽しいですか。 学校は、小中一貫校のメリットを生かした教育を推進している。 	3.8	3.3	3.8	3.7	3.1	3.0	3.1	3.3	3.2	3.6		<ul style="list-style-type: none"> 「あなたは、小学校と中学校が一緒になっている学校生活は楽しいですか」の問いが、小学校では3.8となっている。小学生が好意的に受け止めていることを中学生へ伝え、相乗効果を高める。 合同運動会、中学部教員の乗り入れ授業など、一貫校のメリットを生かした教育を今後も進めていく必要がある。 ホームページ閲覧者が増えているので、職員間の輪番を強化し、発信が途切れないようにしていく。折あるごとにホームページを紹介していく。 今後も定期的にホームページを更新する。 次年度より本格実施となる市の地域学校協働本部と連携して、小学校の各教科においても地域人材を生かした取組を推進する。 各教科、総合な学習の時間、へそ祭り、キャリアミーティング等、地域の人材を活用した学校行事を今後も積極的に推進する。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを毎日チェックしている。現在学校がない中で、卒業式に参加できなかった在校生もホームページで卒業式の様子を知ることができて喜んでいて。今後も小さい事でも発信してもらえると嬉しい。 評価を見ると、小中一貫のメリットを児童生徒は感じているようだ。保護者の評価が低いのは、学校への関心をもっていないことにあるのではないかと。 懇談等で残ってほしい人に残ってもらえない面があるのでは。 一学年一学級だからこそ他学年との交流が大事。 昔は、上級生が怖かった。その意味で小中一貫は良いと思う。 何が子供にベストかを考え、中学校の頃が一番人間関係充実していることを考えると、中学校を一つにまとめた再編も考えるべきでないか。 学校にしろらうといった意識となっていないか。 学校、家庭、地域の課題として、校長先生の方針を保護者に理解してもらい必要がある。保護者も何でも学校任せにせず、自分たちの役割を意識させていく必要がある。
		<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、学校の取組を通信やホームページを通して積極的に発信している。 学校は、学校の取組等を学級通信や学校だより、ホームページなどで家庭や地域に発信している。 						3.2	3.0	3.3	3.2	3.7				
		<p>16</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、授業や行事等において、家庭や地域等の人材を活用した取組を積極的に行っている。 あなたは、さいと学や総合的な学習の時間を通して、新しい発見や自分の考えをもつことができますか。 学校は、家庭や地域と連携・協働した取組を積極的に行っている。 	3.7	3.3	3.7	3.4	3.4	3.1	2.7	3.1	2.9	3.4				